

する。当初は玉作という文字が使われていたが、のちに玉造の文字に改められたと伝えられている。『姓氏録』右京神別の項に「天孫降臨のさいに「造作玉壁以為神幣」ゆえに玉祖連と号く。亦、玉造連と号く」とあるのを出典としている（『大阪府全志』巻之二）。

31.玉造元町（たまつくりもとまち）

付称の「元町」は日之出通を中心とした近代の玉造の原点（元点）に当たる町域であることによる。

32.茶臼山町（ちやうすやまちょう）

町域に所在する前方後円墳の荒陵の形状によって江戸時代の人（元禄期以後の人々）たちが茶臼山とよびならわしたことに由来する。



茶臼山（浪花百景）

33.寺田町（てらだちょう）

四天王寺の寺田（じでん）が所在した地であることに由来するというのが証明することができない。旧村当時の小字名による。

34.堂ヶ芝（どうがしば）

旧村当時の小字名に由来するが、この町域からは豊川稲荷別院の境内において古代瓦が出土されていて、古代に何らかの殿堂が所在していた故事に従って小字名が生まれたと考えられる。



堂ヶ芝廃寺

35.東上町（とうじょうちょう）

旧村当時の小字東上郷が町域の一部を占めていることに由来する。

36.東高津町（ひがしこうづちょう）

『古事記伝』に「船着て難波津八岸の上なりけむ」と記して、難波津の東岸が丘陵になっていた地形に由来する地名とある。また『日本

書紀』などに見える「高津宮」の高津を音読して「こうづ」とした説、同じく「蝦蟇行宮」の「かわづ」を「こうづ」に転じたなどの説がある。

『大阪府全志』はく『摂津風土記』に「磐船にのってここに到り、天の磐船の泊を以て、高津となづけた」と見えるのがその起源とされている。冠称の「東」は高津町域の東部に位置したことによる。

37.悲田院町（ひでんいんちょう）

四天王寺四院の一つの悲田院が町域に所在することに由来する。寛文10年（1670）以後、悲田院の所在地に変わりが無い。

